



まず、子どもの言葉をそのまま復唱して、子どもの気持ちを受け止めます。そして、子どもが嫌な気持ちになつたことに対しても共感の気持ちを伝えます。「どうして友だちが意地悪してきたのかな?」と話を聞くのは、子どもの気持ちを受け止めた、そのあとです。



特に気をつけたいのは、子どもの話を否定しないこと。せっかく子どもが話をしてくれたのに、「そんなこと言うんじゃないよ」と否定して、子どもの話す気力を失わせてしまうことがあります。

次の例では、子どもの発言をすべて否定しています。「お母さんは、自分の気持ちをわかってくれない」と子どもは思い、話すことを躊躇するようになつてしまします。